既設泰園から密植泰園への転換技術 ―― 改植時の上海改良――

(蚕 誠 裁奏部)

1. 背景とねらい

密植速成機械収穫承園は、生産性の根理的な向上が期待できる技術であることがら 既設の普通乗園を改植して、密植乗園を造成することが推進されている。

一般に改植を要する乗回は、概して土壌の化学性、物理性の劣化し、連作障害と思われる活着率の低下などの事例もみられるけ、改植時の土壌改良は安易に考えられ不十分である。とこで、改植時の土壌改良対策を検討した・

2. 技術の内容

- 1) 有機質の施用:有機質の多量施用効果は、極めて高いので、九手可能な有模質を確保施用する。施用目標量は、10 0当たり、廃係唯肥6七, 牛肥20 七. 極黄堆肥10 t. 絹わら堆肥-4七等で腐植の生成量が多く、効果の持続するものみ望ましい。
- 2) 石灰類の施用: 粗碎石灰 (粒径10 mm 以下)を土壌診断結果に基づいて, 概ね 10 4 当たり 4 t 程度施用して, 長期の土壌改良を13 いる。
- 3) 有対燐酸の畠化: 熔成繊肥または重焼満舞を燐酸吸収係数の5%相当量を目途 に施用する。
- 4)全面深樹: 土壌改良適枝の全面散布機に40~50 cm の深耕を行り改良を13かる。
- 5) 神水活着穿の向上:有模質施用等の土壌改良で、忌地を抑え活着 挙句向上する。 活着率の悪い品種には発展促進剤の使用が有効である。

3. 指 葬 上 の 留 意 事 頂

- 1) 有機質素材の施用量は、多量となるので八手計画をたてて確保する。
- 2) 土壌改良状の施用と深耕は、秋末までに終ると冬期間の土壌凍結による風化切 促進して、翌春の穏付作業が極めて各易となる。

4. 参考文献·資料

当手票(1983): 昭和59年度普及奨励・指導上の参考事 関概要高水・寿・及川(1985): 東北農業研究(36)

5. 試験成績

- 1) 試験年次 昭和57~60年度
- 2) 試験方法
 - (1) 有核質の施用効果:① 1982年を従来から栽培の普通乗樹を披根処理して,100当たり組砕石灰 4 也, 苦土重焼燐120以を全面散命し来料する込み, ロータッ料で整地してエン麦を栽培し、83年に禁肥区以外は育田園として供用した。
 - ②84年に試験区:廃棄堆肥区(6t),午厩肥区(20t), 豚黄堆肥区(10t). 終肥区(エン麦栽培す3込み),無施用区(有機物無施用),の5区を設けた。
 - 3素子種: 剣持, あかばねずみ, しんけんもちを使用して, 古条棒木により 密植衆園を造成した。
 - 型収穫調査:造成当年曜秋季期(9月27日)に地脈から 600m 表し中間代保し,2年 目春季期(6月20日)基部代保、 限秋季期(9月24日)300m 秀以穫した、
 - (2) 発根促剤の使用効果:①揮木の発根促進剤NAA(0.02g錠×5錠/1)。

IBA(0.4% 液×20ml/l), NAD(04%末×微量)及び対照の清水に24時間機水下築浸渍。あるいは挿水直前に進抹加理を行った。

- ②供制・園房は、上記録服区と同一風場で、前途の古条さし、水法に準じて、直挿した、
- ③収穫割査は、造成当年には伸長のより枝束60cm 残収穫して、2年目は前試験に準じて収穫した。

3) 試験結果

- (1) 改植時の土炭改良効果は、活着率が到持フしんけんもちフあおばねずみの順であり、有機質施用で看しい同上がみられ、あおばねすみは、豚童堆肥区、廃棄堆肥区、牛厩肥区、上厩肥区、豚糞堆肥区で向上かみられ、 到持は差がみられなりつた。
- (2) 土壌改良効果を乗収量でみると、有機質施用の各区で着しい増収を示し、牛 厩肥区フ豚養堆肥区フ廃条堆肥区フエン麦紙肥区フ有機質無施用の順であった。 乗品種別ではあむばねずみ、しんけんむちけ層収した。
- (3) 田種別の挿木活着率は、しんけんもちつあおばねずみつりましのぎであり、
 発根促進剤のIBAはゆきしのぎ、しんけんもちの活着を促し、NNAはあかはねずみに有効であり、NADの効果は低いった。2年日春毎期の収量は、発根削使用の各区で多収し、新精量でIBAフNAA>NATフ水浸漉の順であであった。

4) **契**体的 データー

	改樹時の土壌の	女良と2年目の桑収量	(1985、月10 a , kg)		
	杂品種	春蚕期 (6.20)	晚秋遊期 (9.24)	年 合	31
有機質		条桑量 新梢量	条杂量 萊 獻	条 桑 鼠 新梢·葉鳳	同左指數
廃条堆肥 6 t	剣 持	1, 147 869	1, 890 1, 339	3, 037 2, 208	138
	あおばわすみ	1, 094 912	1, 888 1, 405	2, 982 2, 317	145
	しんけんもち	1, 292 1, 021	1, 959 1, 348	3, 251 2, 369	144
	(平 均)	(1, 178) (934)	(1, 912) (1, 364)	(3,090) (2,298)	(142)
牛 既 肥 20 t	剣持	1, 280 934	1, 779 1, 219	3, 059 2, 153	134
	あおばわすみ	1, 236 990	1, 870 1, 341	3, 106 2, 331	145
	しんけんもち	1, 841 1, 419	2, 188 1, 490	4, 029 2, 909	177
	(平 均)	(1, 452) (1, 114)	(1, 946) (1, 350)	(3, 398) (2, 464)	(153)
豚黄堆肥 10 t	劍持	1, 300 910	1, 597 1, 127	2, 897 2, 037	127
	あおばわずみ	1, 242 1, 000	1, 966 1, 414	3, 208 2, 414	151
	しんけんもち	1, 501 1, 178	2, 034 1, 466	3, 535 2, 644	161
	(平 均)	(1, 348) (1, 029)	(1, 866) (1, 336)	(3, 214) (2, 365)	(146)
エン変縁肥 2 年	剣持	891 680	1, 256 896	2, 147 1, 576	98
	あおばわずみ	922 750	1, 673 1, 178	2, 595 1, 928	120
	しんけんもち	904 728	1, 823 1, 259	2, 727 1, 987	121
	(平 均)	(906) (719)	(1, 584) (1, 111)	(2, 490) (1, 830)	(113)
無ち用	劍持	908 683	1. 318 919	2, 226 1, 602	100
	あおばわすみ	723 599	1, 330 1, 004	2, 053 1, 603	100
	しんけんもち	817 627	1, 415 1, 013	2, 232 1, 640	100
	(平 均)	(816) (636)	(1, 354) (979)	(2, 170) (1, 615)	(100)

E) 密植桑園造成: 1984 春 古条桥木 (1.0 m×0.25 m) 収穫: 春 (6.20) 基部伐採 晩秋 (9.24) 30 ca幾伐採

	36 MAS 07 4- 187	/ 改上古条編末数	活剤率および道風	支当年の桑収量	(19	84、対10a)
有 機 質	泰品種	活着率 196	最長技条以(m)	条桑世 🙀	葉 歌(m)	問左指数
発条堆肥 6 t	剣持	93. 0	126. 6	590	373	198
	あおばわずみ	67. 0	120. B	453	298	219
	しんけんもち	87. 0	126. 6	489	317	217
	(平均)	(82.3)	(124.7)	(511)	(329)	(210)
牛 既 肥 20 t	剣 持	94. 5	164. 0	917	628	334
	あおばわずみ	65. 0	134. 1	649	· 441	324
	しんけんもち	93. 0	168. 1	1, 159	695	476
	(平 均)	(84.2)	(155.4)	(908)	(588)	(375)
豚黄堆肥 10 t	剱持	94. 0	147. 2	810	501	266
	あおばわずみ	68. 0	124. 5	623	398	298
	しんけんもち	91. 0	157. 4	837	508	348
	(平均)	(84.3)	(143.0)	(757)	(469)	(299)
エン麦縁肥 2 年	剣持	83. 8	118 1	255	155	82
	あおばわずみ	55. 0	120, 1	227	147	108
	しんけんもち	77. 5	114. 5	306	197	135
	(平 均)	(72.1)	(117.6)	(263)	(166)	(106)
無施用	剣 持	91. 0	96. 5	310	188	100
	あおばわずみ	51. 0	109. 9	212	136	100
	しんけんもち	80. 0	107 0	246	146	100
	(平 均)	(74.0)	(104.5)	(256)	(157)	(100)

(4.0) 104.0 104.